

(事後評価)

GTEP (グローバル・テクノロジー・アントレプレナーシップ・プログラム)

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：京都大学 (総括責任者：相山 泰生)

採択プログラムの概要

受講者が自らの習熟度・コミットメントレベルに応じて選択できる異なる難易度を持つ複数の教育モジュールを提供し、幅広いキャリアの選択肢の中で活躍するための高度なスキルとマインドセットを有する人材を育成する。

必要なインフラを整備し、大学を中心とした外部のネットワークを構築することで、有効に機能するグローバルスタンダードな起業エコシステムの構築を行う。

教育モジュールは以下の通りである。日本語・英語での基礎知識教育(A-1)、海外起業ホットスポットでの研修(A-2)、実践的事業化教育(B)、医療機器に特化した実践的事業化教育(C)、エコシステムのインフラ整備およびコーチングプログラム(D)。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性
S	a	S	a	a

総合評価：S (所期の計画を超えた取組が行われている)

(2) 評価コメント

部局を越えた連携の下、社会人受講者を 1/3 の割合で確保するなど多様な受講者を集め、難易度別、エントリーレベル別に対応できる 4 つのモジュールからなる教育プログラムを構築している。その結果として、コンテスト等で優秀な成績を収めた受講者を輩出していること、3 年間で受講者から 16 件の起業及び新事業創出の実績を上げていること、ベンチャーキャピタルからの出資の実績もあること等、高く評価できる。終了後には社会人教育プログラムとして受講料収入による自立的な継続が計画されており、個別企業との連携も期待できることから、総じて、所期の計画を超えた取組が行われていると高く評価できる。

・**目標達成度**：受講者数は 3 年で延べ 332 人と、ほぼ計画通りの人数を達成しており、受講者の構成が理系院生・研究者／文系院生・研究者／社会人がほぼ同数であり、受講者の多様性を活かしたプログラムを実施して成果を上げた点が評価できる。採択時の留意事項に記載の自己資金の確保についても適切に対応している。各モジュール構成と外部機関との連携も多様性があり、大学の研究成果を事業化するプログラムとして評価できる。

・**成果**：受講者のコミットメントのレベルに応じ、難易度別にコースを設定し、エントリーレベルから実際に事業立ち上げを希望する段階までの4つのモジュールでカバーしている。大学の研究成果の社会実装、チームワーク、コミュニケーション、デザイン思考、ハンズオンスキルを集中的に習得する場を提供している。受講者から16件の起業及び新事業創出があり、うち半数が大学の研究成果を活用したものであり、個別企業との協力や起業を検討するプログラムが実践的に機能したことは高く評価できる。また、社会人の受講修了生をプログラム修了後に継続してメンターとして受け入れることで有効な人的ネットワークを構築していることも高く評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：産官学連携本部、経営管理大学院、医学研究科のコンソーシアムとして本事業を推進し、連携先の同志社大学も加えたステアリングコミッティを定期的に開催している。モジュールごとに戦略策定、参加者アンケート、結果の共有と課題の改善手法を採用し、それぞれのプログラムの継続的な改善を実施したことは評価できる。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：モジュールAは、経営管理大学院の正規科目としてプログラムが引き継がれ、モジュールB/Cはオープンイノベーションに対する企業側の意欲向上と実践的な教育プログラムに対する評価により、社会人教育プログラムとして受講料収入を得る自立的な継続が計画されていることは評価できる。海外機関との連携は継続し、ベンチャーキャピタルやコンサルティング企業との継続的な関係形成も図られており、総じて補助金事業期間終了後における取組の継続性・発展性が期待できる。